



浜木綿

学校教育目標

自ら考え、お互いを認め合い、
社会と関わろうとする生徒の育成
スローガン 一人ひとりが主役の白中

令和6年
9月2日発行
第6号

白浜踊りに本校生徒が初参加！地域の方と楽しい時間を過ごす



近畿大学建築学部学生とのWS 「越境する学び」 地域における学びの場を、学生と一緒に創造する

中学生とふるさと白浜のお土産を考えました。

地元中学生の夢と創造力が詰まった、「白浜がちゃ」を作りました。

3ヶ月間 12回の授業を行いました。

1学期 計12回の授業の中で、35名の2年生が「白浜がちゃ」開発プロセスに取り組みました。

商品の開発を考えた！

生徒自らが観光客が多く訪れる高浜を訪ね、自分たちの思いが詰まった「白浜がちゃ」の發售をお祈りしました。

商品サンプルを手に、生徒自ら撮影にチャレンジするなど、思われた時間の中でもデザイン、プロモーションまで学びました。

観光客には数多くある白浜町の魅力に魅かれてほしい、旅行目的の地以外にも回遊してほしい、という願いが込められています。

白浜町産の繪を使った「白浜のカタチ」を模ったキーホルダーが生まれました！
写真はサンプル品を教室内で撮影したものです。実物とデザインが異なります。

「白浜がちゃ」で得た収益の一部は、学生が企画するまちづくりイベント等に活用されます。

取り組みの詳細はWEBにて！



多様な人とのつながりが幸せ

1年生では日記をデジタルで共有

休みの間も幸せなつながり！



神戸女学院の中学生、高校生が訪問、そして交流

夏休みで思い出に残っていることは何ですか？普段とは違うつながりもあつたのではないのでしょうか。

一年生では、始めてオンラインツールでクラスの日記交換をしました。自分のこと、仲間のことを書いている投稿も多いと聞きました。一年生の皆さんは、自己との、他者との対話から何を感じましたか？リアルタイムなやりとりが、オンラインの特徴です。二期、またみんなと会うのが、楽しみになりますね。

二年生では、「白浜がちゃ」がついに完成しました。自分の得意なことを見つけて、それが出来た人もいたようです。二年生の皆さんは、様々な企業の方との授業で、何を感じましたか？利益のためではなく、地域のために活動する大人の姿は素敵でしたね。

三年生は近畿大学建築学部の学生と、白浜・湯崎地域をフィールドワークし、湯崎の坂や空き地、公民館の活用について三グループに分かれてアイデアを出しました。

つながり

スケッチや模型を用いてアイデアを形にした発表は、見応えがありました（成果物は、三年教室に展示していますので是非見て下さい）。三年生の皆さんは、大学生の中に、ロールモデルは見つけられましたか？アイデアを出すだけでなく、飽きさせない工夫や気遣いがいっぱいあり、豊かな学びとなりましたね。

また、神戸女学院の中高生の訪問もありました。それぞれがイメージした「空」を描き、対話しました。住む場所が違うと、絵やその背景も違うという発見もありました。

多様なつながり

人は、多様なつながりがあると、より幸せになるという調査結果があります。学校は、そういうつながりを創ることが出来る場です。身近な家族、仲間とのつながりも大事にしながら、さらに、地域の方と一緒に、みんなが学べる、幸せになれる学校を一緒に創っていきましょう。

九月七日には、「白中夏祭り」が予定されています。まさに、つながりのお祭りとなります。

